



仲間と共に

令和4年度 <三輪南小 学校だより> 令和5年1月11日



ぴよーんと跳ねる飛躍の「卯年」に

校長 小野木 義浩

令和5年がスタートしました。本年もよろしくお願いいたします。

今年の干支の「卯」には植物が目に見えて成長するという意味があります。また、「卯」の文字は「門」という字に似ていて、新しいことに挑戦する門出の年と言われています。さらに「兎」の跳ねる姿は飛躍、向上を象徴しています。子供たちはもちろん、みんなが「ぴよーん」とジャンプできる飛躍と成長の一年にしていきたいですね。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から・・・

今年度の6年生の子供たちが受けた「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになったことを本校の子供たち全体の傾向の目安としてとらえ、指導に役立てています。今年度は、国語と算数のほかに理科の調査が行われました。教務主任が、結果を分析して簡潔にまとめたものをベースにお伝えします。

<児童への質問紙調査>について

・「人が困っているときは、進んで助けている。」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」「人の役に立つ人間になりたい。」「学校に行くのは楽しい。」「先生は、自分のよいところを認めてくれている。」など、90%以上の児童が、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答しており、大半の質問に対して、肯定的な回答が多かったと言えます。

☆昨年度は県や国との当てはまる割合が大幅に下回っていた項目だった以下の2つがプラスに転じたことは大変良い傾向であるとしてとらえています。

(16) 学校へ行くのは楽しい (よく当てはまる割合) 31.7% (R3) → 57.6% (R4)
県との差 +8ポイント 全国との差 +6ポイント

(7) 自分にはよいところあるか (よく当てはまる割合) 19.2% (R3) → 43.5% (R4)
県との差 +4ポイント 全国との差 +4ポイント

また、「先生は、よいところを認めてくれている」は (よく当てはまる割合) 62%で県と差は+13パーセント 全国とは+16パーセントという結果になっていることは、教職員の子供たちへの関わりの傾向を示すものであると捉え、子供たちの自己有用感につながればとうれしくおもいます。今後とも、子供たちのよさに目を向け、小さな成長を見逃さず、価値づけていきます。

・「国語・算数の学習は好きか。」「学習において、PCやタブレットなどのICT機器をよく利用しているか。」の問いに対しては、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が、全国ならびに県を若干下回っており、課題として捉えています。

<国語・算数・理科の学力テスト>について

3教科の平均正答率は、全国とほぼ同等で、国語と理科については、全国ならびに県を若干上回り、算数については、県を上回ったものの全国平均には若干及ばなかったという結果でした。

調査問題の出題形式は、日頃学校で行っているドリルやテストと異なる点が多々あるため、解答に苦慮した児童も少なからずいたかと思われませんが、問題への取り組み方を問う質問に、大半の児童が、「最後まで解答を書こうと努力した」と答えており、諦めずによく取り組んだ様子がうかがえます。

各教科の基礎基本となる知識や技能は概ね身に付けています。しかし、全国や県の傾向と同様に、知識技能を活用して解く、いわゆる応用問題に苦手さがあります。また、文意を的確に読み取ったり、文章で理由を説明したりする問題に誤答が見られます。

今後の方向について

結果を受けて、授業改善としては、課題に対して自分なりの考えをもって解決したり、仲間と交流したり、授業のまとめを自分で考えて文章にしたりする、といった学習活動をICT機器の活用も含めて、多く取り入れています。また、ペア交流やグループ学習など、学びへの意欲や楽しさが高まる学習形態を工夫しています。

生活面においても、児童一人一人の良さや頑張りを認め励ますとともに、児童同士が互いのよさに気づき認め合えるよう支援していこうと取り組んでいます。

参考：全国・県との差が顕著なのは…

<全国の正答率より5ポイント以上上回っているもの>

国語

- 2一（2）登場人物の相互関係について、描写を基に捉える 76.4%（+5.8ポイント）
- 3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見付ける
46.1%（+8.4ポイント）
- 3三ウ 漢字「親しむ」 76.4%（+9.3ポイント）

算数

- 1（4）示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
（ 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ）
45.6%（+10.8ポイント）
- 4（1）正三角形の意味や性質を基に、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる
（正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す）56.7%（+7.9ポイント）



理科

- 2（3）自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる
（水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ）76.7%（+13.9ポイント）
- 2（4）自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる（凍った水溶液について、試してみたいことを基に、

見いだされた問題を書く) 52.2% (+12.9ポイント)

- 3 (4) 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる(問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く)

43.3% (+8.2ポイント)

<全国の正答率より5ポイント以上下回っているもの>

国語

- 1一 話し言葉と書き言葉との違いを理解する 78.7% (-6.8ポイント)

- 1二 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える

60.7% (-8.1ポイント)

- 3三イ漢字「反省」 43.8% (-14.9ポイント)

算数

- 1 (2) 二つの数の最小公倍数を求める(14と21の最小公倍数)

66.7% (-5.5ポイント)

- 2 (1) 百分率で表された割合を分数で表す

(果汁が25%含まれている飲み物の量を基にして、果汁の量の割合を分数で表す)

64.4% (-6.7ポイント)

- 3 (1) 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める

70.0% (-5.3ポイント)

- 4 (2) 図形を構成する要素に着目して長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している(長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く)

77.8% (-5.4ポイント)

- 4 (4) 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる(示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ)

45.6% (-12ポイント)

理科

- 1 (3) 昆虫の体のつくりを理解している 63.3% (-9.8ポイント)

- 2 (2) メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている 64.4% (-5.6ポイント)

- 3 (1) 日光は直進することを理解している 22.2% (-5.6ポイント)

- 4 (4) 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している

47.8% (-14.2ポイント)



どうしてもコロナ禍で、体験や実験、実習などが減る傾向がありました。

今は、子供も大人もインターネットなどで、映像や情報が手に入りやすく、やらなくても・やれなくても「やったような気分」にはなれますが、やっぱり「リアル」にやってみることから学ぶことは多いです。理科の実験や算数の図形の操作、社会科の学習などは、どれだけ自分でやってみるか・どれだけ自分の足で調べるかなどが「本当にわかる」につながると言えます。